

## 生物多様性への取り組み

コマツの事業活動が生態系に与える影響を認識し、生物多様性の保全に取り組んでいます。

### 生物多様性への取り組み

コマツは2011年1月に「コマツの生物多様性宣言」および「コマツの生物多様性ガイドライン」を制定し、世界の全ての事業所で生物多様性保全に向けた活動を開始しました。

コマツの事業活動が生物多様性に依存し、同時に影響を与えているという認識に立ち、生物多様性の保全に貢献する取り組みを2つの側面から推進しています。

一つは今まで取り組んできた「事業における環境負荷の低減活動」を着実に推進していくことです。また工場建設などの土地活用時にも生物多様性への配慮を義務付けました。

もう一つはコマツとして生物多様性の保全に直接的に関わり、また社員の意識を高める意味でも、その地域固有の生態系に配慮をした「1拠点1テーマ活動」を展開することです。

### コマツの生物多様性宣言

コマツは、「事業活動が生物多様性の持つ生態系サービスの恩恵に依存し、また影響を与えている」との認識のもと、生物多様性が損なわれつつあるという危機感を共有し、生物多様性の保全とその持続可能な利用に努めるべく、下記指針に従い行動する。

#### I（経営層の認識）

生物多様性の保全を、重要な経営課題の一つとして捉える。

#### II（活動）

次の2つの視点を基本とし、気候変動問題と統合的に活動を進める。

1. 事業活動を通して生物多様性に影響を及ぼしている環境負荷を低減する。
  - (1) 製品の環境負荷低減
  - (2) 製品のライフサイクルにおける直接的な環境負荷低減
  - (3) 土地利用時の生物多様性への配慮
2. 社会貢献活動を通じて、生物多様性保全に寄与する。

#### III（進め方）

実現可能性を勘案し、ステップバイステップ・アプローチにより活動を進める。

#### IV（地域との連携）

地域に根ざした生物多様性を保全するため、行政機関、地域住民およびNGOなどとの連携により活動を進め、地域が誇れる企業をめざす。

## 生物多様性への取り組み

## V（全員参加の活動）

社員全員が生物多様性の重要性を認識し、全員参加で活動を進める。またその活動は、コマツの製品のライフサイクルに関わる協力企業、代理店およびお客様をも巻き込んでグローバル・グループワイドに進める。

## VI（コミュニケーション）

生物多様性に関する社員の啓発に努める。また、自らの取り組みを積極的に情報開示し、社会における生物多様性の保全の重要性に対する認識度合いを高めることに貢献する。

## 事業所での取り組み（1拠点1テーマ活動例）

## コマツ開発本部試験センタ実用試験部

## 自然豊かな土地の特性を生かし、郷土固有の希少な動植物の生育環境を維持

建設機械の品質確認テストを行う試験場は、大分の自然豊かな場所に立地しています。

この環境を維持するための生物多様性保全活動の一つとして、2011年度に四季を通じて動植物の調査を実施したところ、郷土固有の希少な動植物が生育・生息していることがわかりました。それ以降この生育・生息環境を維持するため、水辺環境の保全、荒廃林の整備などを行っています。

試験場内で確認された希少動物の多くは、両生類や水辺を利用する鳥類、幼虫期を水中で過ごす昆虫など、水辺環境の良し悪しが生息に影響される生き物であったため、可能な限り試験場内の自然素材を利用し、水辺と陸地が緩傾斜となるよう造成するなど水辺環境を整備し、希少動物の生息環境、移動経路を確保するよう配慮しています。

荒廃林は自然光が差し込む理想的な里山となるよう整備し、キンランなど、背丈の低い郷土固有の植物も生育がよくなる環境を整えています。

試験場内の自然環境の状態を確認するための指標として、両生類、キンランの分布図を作成し、個体数の調査を毎年行っています。調査の結果、場所によっては数が増加しており、試験場全体の自然環境が適切に維持されていることを確認しています。

また、多くの自然が残るこの試験場内の環境を維持するためには、生物多様性保全活動を定着・恒久化することが重要であるため、社外講師を招いて社員の教育も定期的に行っています。2017年度は、ヤマザクラの挿し木の方法を社員が受講し、今後、場内での郷土固有の樹種の植樹に活かしていきたいと考えています。

さらに、試験場内での活動だけでなく、年に4回、近隣河川の大野川の清掃を実施したり、地域住民を招いた事業所フェアでは専用のコーナーを設け、生物多様性について知っていただくなど、地域の自然環境を守る活動も行っています。将来に向け、多くの自然環境を残すためには、企業としての生物多様性への配慮だけでなく、地域住民とコミュニケーションを取り、理解・協力を得て活動を推進していくことも重要であると考えています。

このような地道な生物多様性保全活動が社内外に波及し、社会全体に浸透していくよう、これからも活動を続けていきます。



サンショウウオ



キンラン

## 生物多様性への取り組み



社外講師による教育



大野川清掃の様子